



第3地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐 吉田 知弘（福岡東 RC）

この度、全国のロータリアンの皆様へ広くレターを差し上げる機会を賜り、大変ありがとうございました。私は、第3地域ロータリー財団地域コーディネーター補佐として、九州4地区の担当を仰せつかっております。会員の皆様からの寄付増進を図り、ロータリー活動の礎を創ることを役割と認識し、微力ながらも貢献できればと願っております。そのような立場から、ロータリーの諸活動に関して思うところを少しだけお伝えしたいと思い、本稿を寄せます。



ロータリーの発展は、しばしば3つの要素（奉仕プロジェクト、公共イメージ、会員増強）のスパイラルによって支えられると説明されます。たしかに、①意義深く効果的な奉仕プロジェクトにより社会をよりよい状態へと導くことができれば、その実践を通じてロータリーが好意をもって社会に認知されます。②その好感度の高まりは、パートナーシップとエンゲージメントの機会を広げると同時に、メンバーの自尊心と積極的な参加意欲を高め、結束力の高まりを通じてクラブとロータリーを一層魅力的な存在へと向上させます。③このような成果の集積により、クラブ拡大と会員増強もよりよく達成されます。

この3つの要素が好循環のスパイラルを描き出す様子をイメージすると、ロータリー活動にも取り組む意欲も自ずと増すことでしょう。その一方で、意義あるロータリーの諸活動がロータリー財団への寄付によって支えられていることを忘れてはなりません。その意義をご理解いただき、是非とも寄付の増進にご理解とご協力を賜りたいと願っております。

さて、こうしたロータリーの重要な取組の一つである「ロータリー平和センター」をご紹介させてください。これは平和学に優れた大学の中に「ロータリー平和センター」を設け、世界からの留学生（ロータリー平和フェロー）を招き入れて、積極的な平和構築のエキスパート（Peace Builder）として養成し、そのスキルを高めて世界に送り出してゆく活動です。2002年にスタートし、現在では世界に8か所、うち1つが日本の国際基督教大学に設置されています。

現在、注目を集めるイランのホルムズ海峡の封鎖問題をはじめ、国際的な武力紛争が随所で頻発しており、国際情勢は極めて不安定で危機的な状況にあります。こうした国際情勢をみるにつけ、平和への取組の重要性を思わずにはられません。平和構築の専門家を養成する平和センターの取組は、一層その重要性を増していると思われます。

国際基督教大学の平和センターのことは、これを支えるホストエリア（首都圏7地区）の外に出るとなかなか周知されない状況にあることは否めません。よくご存じの方もそうでない方も、本稿をご覧くださいましたら、是非ネットの検索エンジンで「ロータリー平和センター」を検索してみてください。その充実した取組の内容をご確認いただけることと思います。